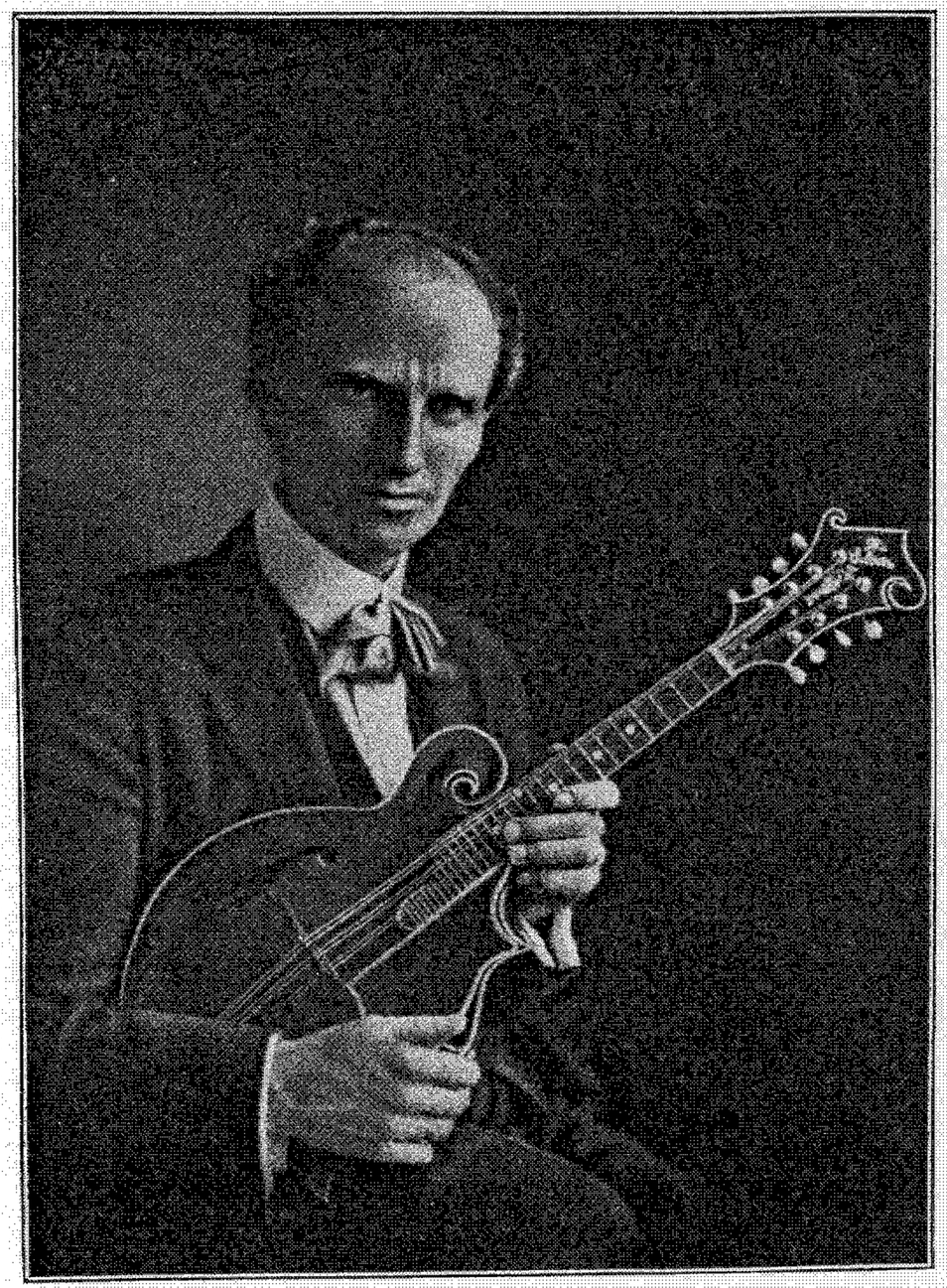
ウヰリアム・プレース
William Place



ブレースに就いて

ウヰリアム・ブレースは米國が生んだ優れたマンドリニストである。彼の演奏は纖細で人を魅了すると評せられるが、彼の演奏に充分な力と熱とが存在するか否かは稍問題である。近來作曲上にも演奏上にも全然沈默を守つて居るのは惜しむべきである。

眞のマンドリン曲を演奏せよ

現今米國各地の音樂會曲目を一見するに眞のマンドリン曲の演奏が何故に斯く尠いのであらうかと怪しまずには居られない。實にマンドリン獨奏として記されたものは、其殆んど總べてが既に幾度も繰返されたヴァイオリン曲に外ならないのである。トロメライやカヴァレリア・ルスティカーナは勿論よい曲であるに相違ない。がマンドリニストが此等の曲を公會の場所で演奏せんとする時に、彼は何故ヴァイオリニストから樂譜を借り樣とするのであらうか。何故に名音樂家に依つて編曲された無伴奏形式の樂譜に依つてマンドリンの眞の價値を公衆に示さうとしないのであらうか。一般が既に平凡なヴァイオリニストに倦怠を催して居る此際に於てマンドリンを以て陳腐な單音のヴァイオリン曲を彈奏したのでは一般が遂にマンドリンの價値を疑ふるに至るのは當然である。之に反してマンドリン獨奏家が或單純な無伴

奏形式の曲を彈奏して其結果如何と聽衆に注目すれば、彼等は單にそれから多くの興味を覺えるのみならずマンドリンが、斯かる演奏に適した樂器である事を始めて知つたと異口同音に叫ぶに相違ない。「然し私には無伴奏形式の曲は彈奏出來ない」と云ふ人があるかも知れない。若し其人々にしてベッテイネ氏著の Duo Primer（此種の書は目下他に出版せられて居ないから特に此書を指示するのである）を學んだ事がなければ音樂會で演奏する事を斷念すべきである。今日は未だ一般の人々がマンドリンに多くの期待を持つて居ないのが事實であつて、若し彼等を驚嘆せしめ得る樣な演奏が出來ぬ位なら寧ろ之を行はぬがよいのである。茲に一言斷つて置きたいのは、私は他の曲を一切放棄して無伴奏形式の曲のみを演奏せよと云ふのでは決してない。公衆の前に演奏せんとするマンドリニストは、よし彼が演奏するにしても、曲目中に尠くとも一つの無伴奏形式の曲を加へる事を望むだけである。

目下優れたるマンドリン獨奏曲の出版せられたるものは枚擧に遑ないにも拘ら

ず、演奏會曲目中獨奏曲の半數以上が依然としてヴァイオリン曲であるのは如何なる理由によるのであらうか。私にはマンドリニストが彼等の爲に如何に巨額の費用が出版業者に依つて費されたかを氣附かぬのが不思議に思はれる。私は如何にしてもヴァイオリン譜がマンドリンに其儘適用せられるものとは考へられぬ。吾々は今や歴史を作りつゝあるのであつて、借用した樂譜では役に立たないのである。マンドリン出版業者は既に彼等のベストを盡した。今次は吾々マンドリニストが之を使用して彼等に報ゆるのが至當ではあるまいか。今にして吾々が實行しなければ、出版業者は間もなく失望してマンドリン曲の出版を見合せる樣になるであらう。若しアマテユアソロイストがマンドリンオーケストラ譜を使用する位の程度のマンドリン獨奏譜を使用したならば、出版業者の陳列棚に新版の獨奏曲譜が埃にまみれる事はあるまい。

私は屢々マンドリン獨奏曲は困難に過ぎると云ふ事を聞いて居る。勿論困難なも

のも數多くあるには違ひないが、然し困難だと云はれて居る獨奏曲の大部分は、寧ろ容易なものであると云ひたい。吾々はマンドリン曲の標準をも少し向上せしめなければならない。

先頃私は紐育州の大都會に住んで居る敎師に面會した事がある。此人はバンジョ、マンドリン、ギターの三樂器を一週間に六十回も敎授して居たが、然しアメリカンギルド大會の存在も知らず、雜誌「クレッシェンド」や「カデンツァ」のある事も知らない。彼は只マンドリンをヴァイオリンの彈奏法に依つて敎へて居たのである。此人は私に自分のマンドリンの鉛筆位の太さのネックを指して得意氣に之は自分の註文に依つて作つたもので、彼のストラディヴァリウスのヴァイオリンと同一寸法であると話した。即ち彼はマンドリンをヴァイオリンたらしめんとして努力して居たものらしい。若し人々がマンドリンをヴァイオリンたらしめんとして努力するならば宜しくマンドリンを放擲してヴァイオリンに代へるべきである。さすれ

ばマンドリンは今日の狀態を脱して、其進歩は非常に速に成るであらう。今日吾々が眞のコンチエルトを演奏しやうとすれば一二を除いては遺憾ながら手にし得ないが、さうでない限り如何なる曲譜でも之を購ふ事は容易である。孰れにしてもプレクトラムコンサートに常に見る古い曲のみを演奏しなければ成らない理由は毫も見出せない。

オーケストラは眞のマンドリン曲を彈奏して居る。何故に獨奏者はそれをなし得ないのであらうか。

（譯者曰、米國の斯界の貧弱さが此一文をもつてしても容易に首肯されやう。而も今日では此一文が公にされた時よりも更に沈傾期に入つて居るのである）。

マンドリン奏者に

マンドリンの眞價を認めて居る人は何故に此樂器が一般に重視されないかを屢々怪しむ。此輕視の理由は數多くあるが、其内最大なる原因と見るべきものは一般が此樂器の能力に就いての知識が無い事にある。今日に於てすらマンドリンの合奏を一度も聞いた事の無い人の數は決して尠くない。

獨奏家たらんとする希望に滿ちた若い練習生はテクニックがマンドリニストと成る決勝點なりと誤解し、或曲の複雜なテクニックを仕遂げる迄熱心に練習する。そして演奏會に臨んでは音色に注意を與へず、噪然と一氣に彈奏し去るが故に音樂家としてよりは、體操教師としての資格を備へるものなりと云ふ感を聽衆に與へるのが常である。

吾々はマンドリンが高級な樂器であると云ふ事を先づ念頭に置き、其實證を他樂

器の演奏者に示すべく努力しなければ成らない。そして吾々の愛好する樂器を公衆の批評に任せる爲には此樂器を以て所謂大曲が單に技術上に於てゞなく、眞に價値ある演奏をなし得らるゝ事を示さなければ成らない。

マンドリンに反對する者は特にヴアイオリニストであつて彼等に向つてこそマンドリンの眞價を充分悟らしめる事が肝要である。ヴアイオリニストは僅の困難を以て――或は少しの困難もなしに――弓の長さだけ電光の如き速かな連續音を出す事が出來るが、之に反してマンドリニストが之と同一に彈奏する爲には、此樂器の性質上一箇月の練習を必要とする。然るにマンドリンとヴアイオリンとは整調も、運指も全く同一であるが故にヴアイオリンの批評家がマンドリンの演奏上のテクニックを見る時は、自然兩樂器のテクニックの上の難易は略同一であると考へ、マンドリンのテクニックの非常に困難な事實は遂に彼等に注意せられずに終るのである。

先年一點非の打處ない立派なマンドリン獨奏を新聞紙は「淺薄な技巧が面白い」

「オルゴルに仕込まれたワグネルのオペラを思ひ起す」と冷評した。そして其時の批評家はヴアイオリニストであつた。此マンドリニストは勿論名手で此評は一顧の價値もないものであるが、然しマンドリニストが單にテクニックを示す曲を選んだのは稍誤れるものであつたと云はなければ成らない。

テクニックが優れた奏者と成る一要素である事は云ふ迄もなく、又勿論テクニックなしに優れた奏者と成る事は不可能であるが、さりとて何事をも顧ずして單にテクニックにのみ腐心するのは練習生の取るべき道でない。茲に於て音色の注意を拂ふ事が肝要であると云はなければ成らない。或曲を眞に音樂的に奏で得るならば、演奏者は單にテクニックを示すより以上多大の賞讃を博すべきは論を俟たない。若しピックの雜音が十尺乃至十五尺の距離に於て聞かれるならば、演奏者は音の出し方を尙一層研究する必要がある。

ピックの雜音に關する問題の序にマンドセロ研究者に一言の注意を與へたい。余

は未熟なマンドセリストに依つて出される憐むべき音調の爲に、美事な合奏が屢々害はれた事實を知つて居る。そして其都度演奏者自身にはピックの雑音が聞えぬのでは無いかと云ふ事を怪しまずに居られなかつた。例へ如何なる强音を出すにしても約二十尺の距離に於てピックの雑音が聞えぬ様に此樂器を彈奏する事は決して難事では無い。又若し聽者の少ない客間等でマンドセロを彈く時はレザーのピックを用ひて良結果を得る事も出來る。單にマンドセロに限らず、すべてピックの選擇に注意を拂ふ事は甚だ大切である。良いピックは數多く販賣されて居るが、其内一種を選び常に其種のピックを使用するのが最上の方法である。ピックを屢々取換へる事は何れの點よりしても得策で無い。そしてピックに就いて最重要な事は其緣が適當に斜面に削られて居る事である。

マンドリン練習生が今迄テクニックの研究にのみ費した時間の半ばを、今後音色の研究に費したならばマンドリンの勝利は必ず近い將來に實現されるに違ひない。

マンドリンをして理解の優れた音樂家に認めさせやうと考へるならば、迅速なテクニックや喧噪な音調を超越して聽者をして眞にインスピレーションを感ぜしむべき優れたる演奏を行ふ事に努力しなければ成らない。

音樂の解釋と其の演出

『彼は其の樂器をして眞に物を云はせる』とは優れたる音樂家の演奏を聞いた後によく聽衆の私語する處であるが余も此の言の至當である事に遭遇した。先頃余は有名なピアニスト、ウラヂミル・パツハマンの催したショパンの夕に彼の演奏を聞いて彼亦ピアノにものを云はせ得る人であると考へた。其時彼が彈いたショパンの曲は余が曾て何度も聞いた曲であるが、其の晩程深く感動した事がない。演奏會の終つた後で余は靜に考へた。パツハマンと同じ曲を彈く人は幾人もあるが、何故に彼程聽衆を魅し去つたものがなかつたのであらうか。彼がピアノをしてものを言はしめたからである。換言すれば作曲者が云はんと欲した意味を彼がピアノに依つて表はし得た故である。

勿論如何なる樂器にせよ、ものを云はせるには完全にテクニックに通じて居なけ

ればならない。マンドリニストにしても、たとへ其の曲が簡單なものであつたにせよ、其內容をよく解釋して演出したならばマンドリンは世に一層顧みられるに到るであらう。音樂とは只亂雜に、クレセンドやディミヌエンドを挾んだ音符の連續したものではない。音樂を奏すると云ふ事は單にテンポを正確に守つて音符を一つ一つ彈く事を云ふのではない。各樂節をよく注意して如何なる些細な記號も等閑に附してはならないのである。

或る暗誦家は一本調子に讀む事は出來るが、其語る處に活氣もなければ興味もない、一節の終らぬ內に早くも聽衆は倦む樣になる。斯かる暗誦家は只字を讀むに過ぎず、コンマもピリオッドも何の意味をもなさない。悲しい哉素人音樂家の五割以上は斯かる暗誦家に等しく、音符の暗誦を行ふに止まる。

一の曲には其の作曲者が必ず己の感情を吹き込んであるから、演奏者は先づ其感情を咀嚼して後始めて演奏に從事し、作曲者の意のある處を聽衆に傳へなければな

らない。書物に句點のなきは價値なきが如く、音樂に句點なきは少しの價値もない。然しある人の演奏ではマンドリンは曲の意味を表はす程重大なる樂器ではなく、只輕い曲を彈くものであると云ひたい。決してマンドリンで曲の精神を現はせぬ事はない。マンドリニストが今少しく曲の意味を了解して聽衆を感動させ得らるゝ樣に彈奏すれば今や非常な勢を以つて廣まりつゝあるマンドリンの標準を一層高め得られる事は疑ひないであらう。

マンドリンオーケストラについての理想

ガードプレートが貝で美しく蝶形に象眼された三弗のマンドリン。薔薇の蕾と竪琴の模樣ある商賣本位の桃色表紙教則本（其内容たるや第一ページに初歩のワルツ、最後のページに「ゼ、モッキング、バード」）「眞正の鼈甲製ピック」と云はれて居るが實は音を出す爲の器具と云ふよりも、左官屋の鏝と云ふ方が適當なピック。之に綠色のマンドリン袋があればクリスマスの用意がすつかり揃つて仕舞ふ。加ふるに大割引五弗で十二個の教授。斯う並べ立てゝ練習を始めたものは正月には早くも名人に達する道程を可成に進み、復活祭時分には既にマンドリンを「學んだ」事となり、暫くするとオーケストラの一員としての資格を具備したと自ち任ずるやうに成る。プレクトラム樂器隆盛の今日斯かる事は怪しむに足らない。

目下眞鍮樂器をマンドリンオーケストラに入れて置く事の可否が大分喧しい問題

と成つてゐる。勿論普通一般のマンドリンオーケストラでは眞鍮樂器がプレクトラム樂器と音に於て平均して居ないのは事實であるが、プレクトラム樂器演奏者の意見によれば之は決してプレクトラム樂器の過失ではないと云つて居る。即ち議論はすべて眞鍮樂器に集中されてゐる樣である。つまり眞鍮樂器は大分毛嫌ひをされて居る型である。然し私の考へでは若し私等のオーケストラに眞に技倆の卓越した演奏者がもつと多く居たならば、斯かる問題は決して起らない筈だと思ふのである。單に眞鍮樂器に限らず、如何なる樂器であつてもマンドリンオーケストラ中に於て私等は充分彼等と對抗して行く事が出來ると私は信ずる。

現今一般のマンドリンオーケストラ員が、本文冒頭に述べた樣な極端な人達ばかりだとは決して云はぬが、其技倆がレギュラーオーケストラに於けるヴァイオリニストとは大分徑庭のあるのを否む事は出來ない。今の一般のマンドリニスト位の腕しかもたないヴァイオリニストは大抵樂譜の持運びをしたり、椅子の塵を拂ふばかりで決して好い標準オーケストラの一員として公衆の前で演奏するやうな事はない。

勿論眞鍮樂器は音が強大で之と爭ふなぞは愚の至りである。唯眞のマンドリン、マンドラ、マンドセロの優れた彈奏者（即ち其樂器の音調に就いてよく理解し、必要の場合には正確にして極微細な音までも出す事の出來る優秀な研究者）が多くなつたならば、假令マンドリンオーケストラに眞鍮樂器や其他あらゆる樂器を加へた處で、私達の樂器は正に其等と平衡を保つ事が出來得ると云ふ事を忘れてはならない。

劣等なマンドリンオーケストラを瞑目して聞く時は、武力屋根に雹の降つてゐる光景を思ひ起す。之は演奏者各自が音の出し方を少し注意したならば起らない事である。同程度のヴァイオリンオーケストラは疑も無く、木挽小屋の幻想を與へるが幸にして斯かるオーケストラはあまり世間に顏出をしない爲に稀にしか聞かされな

い。之に反しマンドリンオーケストラの方は、到る處にあつて其技倆を二の次にし恰もプレクトラム樂器の存在を認めさせる爲に示威運動をやつて居るかの如くに憶面なしの發展を試みて居る。

私は或時優良な樂曲を規則正しく練習して居る、見掛けばかりでない素人シンフオニーオーケストラの練習を聞いた事があるが、其時のオーケストラでは第一ヴアイオリンの最後の椅子に座つた者でも五年間研究した人であり、他の者はすべて五年乃至十五年間研究を怠らないものばかりであつた。そして各自が非常によく訓練されて居るから、各々のパートをよく理解して完全に彈奏する事が出來た。此事が今日のマンドリンオーケストラに最困難な點である。一言にして云へば各自個々の訓練が足りない。若し訓練さへ行屆いて居れば、眞鍮樂器と音が平均しないなどゝ云ふ事は聞かれない筈ではあるまいか。

私は此際米國中の斯道の大家を集めて、マンドリンオーケストラを編成しオーケ

ストラ指揮以外の仕事に手をつけない、專問の立派なコンダクターの下に全國の演奏旅行を行つたならば其マンドリン發達上の效果は蓋し大なるものがあるであらうと思ふ。

此事は今日に於て最早口頭に依てのみ可能なる議論ではなくなつた。近時マンドリンの進歩發達を見れば、之が事實となつて現れるのは間も無い事であるに違いない。

此處に一例として米國に於けるバラライカ（露國の樂器）の發達を引用する。此樂器が四五年前（譯者曰、今日よりすれば八九年前）始めて米國に紹介された當時は此樂器に對する米國人の知識は殆んど皆無であつた。然るに四年後の今日では如何なる樂器商の目錄にも此樂器が載つて居ない所は無い。之は一にバラライカオーケストラの演奏旅行の功蹟であつて、假令バラライカの名獨奏者が米國中を何回となく演奏旅行をした處で到底バラライカオーケストラが得た樣な賞讃は得られなか

つたであらう。實にアンドレーフは大天才であつた。彼は自分の藝術的思想が非常に高かつたに係らずオーケストラの爲には其團員が演奏し難い樣な曲は決して撰定しなかつた。彼の曲を一見したものは、すべての曲が技術上甚だ簡單なものばかりであるのに氣がつくであらう。彼が大なる賞讃を得たのは全く彼が自分の團員に對してすべて彈奏し得る曲を嚴格に訓練した爲である。

バラライカオーケストラは美しい音をもつてはゐるが、私は其オーケストレーション中に他の樂器を交へたならば一層美しい效果を擧げる事が出來はしないかと思ふ。バラライカは音の强弱と云ふ點では遙かにマンドリンの下位にある。其故に此樂器が吹奏樂器と對抗して一部を成して行けるか如何かは隨分疑問である。がバラライカは兎も角として眞に優れたマンドリンオーケストラが眞鍮樂器木管樂器と竝んで一部を維持して行き得る事は前述の通り疑を挾む餘地のない事で、寧ろ更に進んでは積極的に他の樂器を壓倒する事も可能でなければならぬ。其爲には先づ自己

のパートを充分に理解して、雜音を交へず眞の音調を出し得、且出來得るならば「クラリネット」の補助なしにブレクトラム部を維持する事の出來るマンドリン、マンドラ、マンドセロ演奏者を集める事が肝要である。現今の一般マンドリンオーケストラは大抵一人の熟達した演奏者が居て常にタイムを正確に取つて行き、他の人々は僅に之に附隨して行くのを普通とする。其故に若し一人の優れた演奏者を除いたならばオーケストラは全然オーケストラとしての價値を破壞されなければ成らぬ樣な狀態にある。

マンドリン界のため總ての斯道の大家を集めた眞のマンドリンオーケストラを作る機運が熟して其成立を見るならば、其時こそ始めて大シンフォニーと比較する事が出來るであらう。

最後に私は米國の多くのマンドリンオーケストラ指揮者に向つて彼等の忠實な、そして最價値ある行動に對し尊敬と祝賀の意を表さなければ成らぬ。惜しむ可きは

彼等の演奏者の技が未熟であるの一點で、若し彼等が一層訓練された演奏者を使ふ事が出來たならば、其結果は必ず非常に良好であるに違ひない。此事は私等一同の共通の希望であり、且將來必ず實現される事を信じて疑はない。

（譯者曰、バラライカは露西亞の樂器で、最近まで可成に卑俗な樂器として野人の弄ぶにまかせたものであつたが、此稿中に出て居るアンドレーエフと云ふ偉大な音樂家が之を改良し、ドムラと稱するマンドリンに近い樂器と組合せ、大小種々の樂器を作つて、茲にバラライカオトケストラを編成し、遂に皇室オトケストラとして皇帝の保護を受くるに到つた。後オトケストラを提げて米國に之を紹介してからバラライカオトケストラは一擧に歐米の寵兒となつたのである。本邦にも數年前二回程小規模のバラライカオトケストラが來た事がある。）

マンドラとマンドセロの教授者に

年毎に音樂の練習生は殖えて行きます。其内マンドリンの練習を初める人は可成にありますが、マンドセロを選ぶ人は之に比べて甚だ少く、更にマンドラに手を著ける人に至つては殆んど指を屈するにも足りない程であります。現今總てのマンドリンオトケストラ指揮者が苦しむで居る事は實にマンドラ、マンドセロ奏手の缺乏であります。此事は之等の樂器が美しい、價値の多いものである丈甚だ歎かはしい次第だと申さねばなりません。

此二つの樂器はどうして斯う顧みられないのでせうか。それは一般の人は勿論、多くの音樂研究者でさへ此二樂器についての智識は甚だ少く、或は皆無だからであります。第一に教師其人すらマンドリン、バンジョ、ギターに對する樣に之等の樂器を研究する心がありません。此事を教師に糺しますと常に之等の樂器に就いて教

へを乞ふ生徒の少い事を口實として居ますが、然し之等の眞に美事な演奏を聽く事が無ければ教へを乞ふために教師の許へ來るものゝある譯はないと考へます。

マンドラやマンドセロに就いて其樂器としての特長をも研究する事無く唯單にマンドリンの奏法を轉移して彈奏する者は此樂器の眞の意味に於ける演奏者と云ふ事は出來ません。然るに今の教授者の九割迄は此種の演奏者で之等二樂器が世に現れてから今日に至るまで此方法を執つて來て居るのであります。

假にマンドリンの教師がギター或はバンジョを教へやうとする時、彼は熱心に其樂器に就いての研究を試みると同時に充分な練習を積むで、其間決してマンドリンの事を考へません。私は教師が此態度を更にマンドラやマンドセロに向つても持して居て貰ひたいと思ひます。

私の此言に對して教師は一齊に叫ぶかも知れません。『然し現在擔當して居る三樂器（マンドリン、バンジョ、ギター）の練習すら吾々には不足勝であるのにどうして他を顧る餘裕があらう』と。或はそれは眞實であるかも知れません。然しそれならば何故僞つてマンドラ、マンドセロを教授するのでせう。恐らく彼等は自分が良マンドリニストであると云ふことからピアノ教師が二、三年の研究をも試みずしてバイプオルガンを教授する事實と引き比べて僅かに自分の良心を慰めて居るに相違ありません。若しマンドリン、マンドラ、マンドセロを充分研究した教師が之等の樂器教授の看板を掲げたならば二年に滿たずしてマンドリン、バンジョ、ギター教師より多くの收入を得べきは疑を挾む餘地がないと思ひます。

一體マンドリン、バンジョ、ギターの教師の大部分は一樂器以外に熟達して居ないのが普通でありますが、之は各樂器の性質に於て互に稍相隔たつて居る點のある事を思へば大した不思議はありません。私は右の三樂器を通じて非常に優れた技倆を有する教師を只二人しか知つて居ません。此内一人は實に稀有の多能家であります。

マンドリン、マンドラ、マンドセロを通じて右手の技巧は或點に於て本質的に相違して居ますが然し大體に於て同一の基礎の上に立つて居るものでありますからマンドリン、バンジョ、ギタトを研究するに費すと同じ時間を之等三樂器のために費したならば其進歩は必ず大なるものがあるに違ひありません。只玆に最遺憾な事は今日迄マンドラ、マンドセロの教則本の優れたものが一つも著されて居ない事と之等の樂器に對する獨奏曲が一も發行されて居ない事であります。マンドセロにアレンヂされた曲は可成多く見出されますが而も此樂器の爲に特に作られたものは唯の一つもありません。

私はマンドラ、マンドセロの將來に多大の希望を持つて居るものでありますが、目下の狀態では此理想の實現は遙に遠い未來の問題であるらしく思はれます。之等樂器の成功、不成功は一に教師の研究如何に依るもので、現在の樣に單に兩腕に抱へて、そして彈いて丈居るのでは今後何年を費しても進歩は見る事が出來まいと思

ふのであります。此樂器に對し有效に作曲し得る人が多數あり、且需要さへあれば喜むで曲譜を發行しやうとする商人が無數に存在するに係らず、若し米國の教師等がオーケストラの一部として以外に之等樂器の需要の基礎を作らなければ結局彼の太鼓が合奏の中の有效なる樂器としてのみ認められて居るのと同じ結果に成りはしますまいか。

教師たるものは宜しく長く僞る事を止めて彼等がバンジョ、マンドリン、ギターに對する如く此「深みある音」の所有者、マンドラとマンドセロに就いて充分研究を積まれん事を望むで止みません。(誤解のない樣に附加へますが、此稿で云ふマンドラは主としてマンドラコントラルト、即ち米國でのテノールマンドラを指して居るのであります。譯者)